

令和3年度
WWL (ワールド・ワイド・ラーニング)
コンソーシアム構築支援事業
研究報告書 第1年次



令和4年3月
奈良県教育委員会
事業拠点校 奈良県立国際高等学校

令和3年度WWLコンソーシアム構築支援事業 研究報告書

はじめに

教育長挨拶	p. 1
学校長挨拶	p. 2

1 事業概要

(1) 構想計画書（概要）	p. 3
(2) 事業実施計画書	p. 4
(3) 事業完了報告書	p. 9

2 管理機関の取組

(1) ALネットワーク運営委員会	p.21
(2) ALネットワーク担当者会議	p.22
(3) 高校生国際会議高校生実行委員会	p.22
(4) WWLコンソーシアム構築支援事業課題研究発表会	p.24
(5) 第1回ALネットワーク運営指導委員会	p.25

3 拠点校の取組

(1) 拠点校の概要	p.28
(2) カリキュラム開発	p.31
ア グローバル探究Ⅰ	p.32
イ グローバル探究Ⅱ	p.53
ウ 世界の言語Ⅰ	p.96
エ 世界の言語Ⅱ	p.100
オ 生物	p.102
(3) 授業外の学び	
ア ガー名誉校長 サマーセミナー	p.104
イ 国際教養大学イングリッシュビレッジ	p.107
ウ 大阪府立大学招待授業	p.110
エ GCCの取組	p.114
(4) 成果の発表	
ア 高校生フォーラム	p.117
イ 探究甲子園	p.119
ウ 韓国語スピーチコンテスト	p.121
エ 世界の言語学会発表	p.122
(5) 国際交流	
ア 長期留学	p.124
イ 留学生の受け入れ	p.126
ウ オンライン国際交流	p.129

(6) 連携の広がり	
ア 延世大学（オンライン交流・協定締結）	p. 133
イ コリブリ（協定締結）	p. 134
ウ 立命館アジア太平洋大学（教員研修）	p. 135
立命館アジア太平洋大学（異文化理解ワークショップ）	p. 138
エ 大阪府立大学（1学期吉田先生講演、大学招待授業）	p. 139
オ 名古屋国際中学校・高等学校	p. 140
カ 同志社女子大学（研究室訪問、連携協定）	p. 142
4 事業連携校の取組	
(1) 奈良高等学校	p. 144
(2) 畝傍高等学校	p. 145
(3) 青翔高等学校	p. 147
(4) 法隆寺国際高等学校	p. 149
(5) 高取国際高等学校	p. 150
(6) 奈良女子大学附属中等教育学校	p. 151
(7) 奈良学園登美ヶ丘高等学校	p. 152
5 成果と課題	
(1) コンソーシアムの成果と課題	p. 153
(2) 拠点校の取組の成果と課題	p. 154
(3) 「グローバル探究」における育生指標の検討と評価について	p. 155
(4) カリキュラムアドバイザーからの報告	p. 160

資料・教育課程表

はじめに

令和3年度WWLコンソーシアム構築支援事業研究報告書に寄せて

奈良県教育委員会 教育長 吉田 育弘

令和3年度、奈良県立国際高等学校が文部科学省指定事業のWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業拠点校に採択されました。県内事業連携校である県立奈良高等学校、県立畝傍高等学校、県立青翔高等学校、県立法隆寺国際高等学校、県立高取国際高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校及び奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校と共に、1年間の取組を進めてまいりました。本事業に一方ならぬ御尽力をいただいております皆様に、心から感謝申し上げます。

奈良県立国際高等学校は奈良県の「県立高等学校適正化実施計画」により令和2年4月に開校した、新進気鋭の学校です。「多様な人々との積極的なコミュニケーションを通して、グローバルな視点でものごとを捉え、国際社会の平和と発展に貢献する資質・能力を育成する」をMissionに掲げ、「探究力」、「創造力」、「協働力」、「寛容さ」、「挑戦力」、「キャリアデザイン力」の6つの力の育成に取り組んでいます。開校当初から「グローバル探究」、「世界の言語」などの学校設定科目を開講し、グローバルな視点で持続可能な社会を目指す探究活動や多様な言語や文化に触れる機会を大切にすることで、「真の国際人」を目指す教育を実践しています。

このように、奈良県では前例のない実践をしている国際高等学校が、WWLコンソーシアム構築支援事業の拠点校として、海外の高等学校等とも連携を図りながら、県内すべての高等学校等と情報や成果を共有できることは、奈良県にとっても大きな意味をもちます。本事業のテーマは「最古の国際都市奈良から発信 ～持続可能な社会に向けて～」です。かつて国際都市であった奈良の都に多くの人々が行き交い、様々な情報が集まり、また新しい文化が発信されたように、国際高等学校を中心とするコンソーシアムに多くの人々が集い、意見を交わし、新しい成果を発信していく未来を期待しております。

事業初年度ということもあり、高校生国際会議の開催や大学の単位先取り制度の構築など、今後取り組むべき課題は山積していますが、奈良県教育委員会といたしましても、本県のグローバル人材育成の一助となりますよう、この取組を進めてまいりたいと考えております。次年度以降も御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

持続可能な社会に向けて

奈良県立国際高等学校長 中尾 雪路

変化がますます激しくなるこれからの時代を生きる子どもたちには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を最大限に発揮し、自ら人生を創出することが求められます。このような時代の要請を受け、県教育委員会が県立高等学校適正化実施計画を策定し、「新たな価値を創造する場」として、県立国際高等学校が令和2年4月に開校いたしました。県立国際高等学校は、「多様な人々と積極的なコミュニケーションを通して、グローバルな視点でものごとを捉え、国際社会の平和と発展に貢献する資質・能力を育成する」ことを Mission としています。

開校した令和2年4月は、新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた時期でした。新しい学びのはじまりに胸をはずませて入学した一期生は、開校式の2日後から在宅学習となりました。それ以降、教育活動が制限される中ではありますが、Missionの実現のため、教職員、保護者、生徒一丸となって新しい学校づくりに取り組んでいます。

この2年間、新型コロナウイルスは、私たちの生命や生活のみならず、社会、経済、行動・意識・価値観にまで影響を及ぼしています。私たち一人一人、そして社会全体が、未知の課題、答えのない課題にどう立ち向かうのかが問われています。このような時代にこそ必要なのは、まさしく「新たな価値を創造できる力」です。持続可能な社会の実現に向けて、身近な出来事から解決すべき課題を見だし、知識を活用し、多様な立場の仲間と協働しながら、最適解を生み出すことのできる力です。様々な試練があってもそれを克服し、解決に向かう力も必要となります。国際高等学校では、Missionを実現するため、生徒たちが6つの力を身に付けることを学校の大きな目標としています。6つの力とは、主に知に関する分野の「探究力」「創造力」、心に関する分野の「協働力」「寛容さ」、行動の部分にあたる「挑戦力」「キャリアデザイン力」です。国際高等学校では、「グローバル探究」を中心とした授業はもちろんのこと、学校行事などすべての教育活動を通じて、これらの力を育み、国際社会の平和と発展に貢献することのできる人材を育成していきたいと考えています。

開校2年目である本年度、多くの皆様のお力添えをもちまして、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業のカリキュラム開発拠点校として採択いただきました。「最古の国際都市奈良から発信 ～持続可能な社会に向けて～」をメインテーマとし、「探究力」「創造力」「協働力」「寛容さ」「挑戦力」「キャリアデザイン力」の6つの力を身に付けたグローバル人材の育成を目指して、事業の拠点としての役割を果たしたいと考えています。

奈良県に学ぶ高校生がこの事業を機につながり、持続可能な社会の担い手として協働することができるようなコンソーシアムの構築に、事業連携校や事業協同実施機関とともに取り組んでまいります。この事業に携わっていただく皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。